

## 「道長、伊周の競射」テスト問題

【一】本文について、設問に答えよ。

①帥殿(A)の、南院にて人々集めて弓あそばししに、②この殿渡らせ給へれば、思ひかけずあやしと、③中関白殿思しおどろきて、いみじう饗応し申させ給うて、④下臈におはしませど、前に立て奉りて、まづ射させ奉らせ給ひけるに、帥殿(B)の矢数いま二つ劣り給ひぬ。中関白殿、また御前に候ふ人々も、「⑤いま二度延べさせ給へ。」と申して、延べさせ給ひけるを、⑥やすからず思しなりて、「さらば、延べさせ給へ。」と仰せられて、また射させ給ふとて仰せらるるやう、「道長が家より帝、后立ち給ふべきものならば、この矢当たれ。」と仰せらるるに、同じものを中心には当たる⑦ものかは。次に帥殿射給ふに、いみじう臆し給ひて、⑧御手もわななくけにや、的(C)のあたりに【X】近く寄らず、⑨無辺世界を射給へるに、関白殿、色青くなりぬ。また、入道殿射給ふとて、「摂政、関白すべきものならば、この矢当たれ。」と仰せらるるに、初め(D)の同じやうに、的の破るばかり、同じ所に射させ給ひつ。饗応し、もてはやし聞こえさせ給ひつる興もさめて、こと苦うなりぬ。父大臣、帥殿に、「何か射る。な射そ、⑩な射そ。」と制し給ひて、ことさめにけり。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えなさい。

①南院 ②饗応 ③下臈 ④后 ⑤中心

問二 傍線部(A)～(D)の「の」について

(1) 一つだけ用法が異なるものを指摘しなさい。

(2) (1)で答えた異なる用法を、次から選べ。

ア 主格 イ 連体修飾格 ウ 同格 エ 体言の代用

問三 傍線部①～③の人物の姓名を漢字で書け。

問四 傍線部④とあるが、誰が誰より「下臈」なのか。傍線部①～③を用いて答えなさい。

問五 傍線部⑤はどのような心理から出た言葉か。

ア 怒り イ 悔り ウ 期待 エ 寛容

問六 傍線部⑥の心情を漢字三字以内で書け。

問七 傍線部⑦「ものかは」の意味を答えなさい。

問八 傍線部⑧について

(1) なぜ「御手もわななく」のか。

ア この殿は帥殿を見て勝利を確信したから。

イ この殿は矢を射るときに力を使い切ったから。

ウ 帥殿はこの殿の気迫に圧倒されてしまったから。

エ 帥殿はこの殿に怒りを覚えたから。

(2) 「にや」の直後に適語を補いなさい。

問九 【X】に入るべき副助詞を、ひらがな二字で入れよ。

問十 傍線部⑨と反対の意味で使われている語を抜き出しなさい。

問十一 傍線部⑩を現代語訳しなさい。

問十二 出典と文学ジャンルを答えなさい。

「道長、伊周の競射」 解答例

【解答例】

問一 ① ないん ② きようおう ③ げろう ④ きささき ⑤ なから

問二 (1) (A) (2) ア

問三 ① 藤原伊周 ② 藤原道長 ③ 藤原道隆

問四 ② が①より

問五 ウ

問六 不快 (不愉快)

問七 詠嘆

問八 (1) ウ (2) あらむ

問九 だに

問十 中心

問十一 射るな。

問十二 大鏡、歴史物語